



ぼうさい大賞

兵庫・宍粟 山崎高

積極的に地域交流

炊き出し伝統行事に

兵庫県立山崎高(宍粟市)は、生徒が主体的に企画・運営する防災イベントや、防災活動を通じた地域住民との交流などが評価され、2年連続で高校生

6年前から毎年12月に開催するのが「防災体験活動」だ。生活創造科の生徒を中心に、全校生徒約700人が炊き出しや応急手当体験、避難所運営訓練などをやる。生徒たちの防災意識を高める伝統行事となっている。

積極的に地域との交流にも力を入れる。今年1月、災害時の注意点や防災知識をまとめた防災ガイドブックを作成し、校区内の230世帯に配布した。

同科3年の小坂眞子さん(18)は「高校の3年間で一通り体験し、災害が起きても炊き出しを手伝ったり、ケガをした人にも対応できるようにになった」と振り返る。防災教育を担当する多々良恵教諭は「生徒たちが試行錯誤して取り組むため、本当の力が身につく。今後も継続していきたい」と話す。

【岡崎英遠、写真も】



作成した防災ガイドブックを示す生徒たち
—兵庫県宍粟市の県立山崎高で